

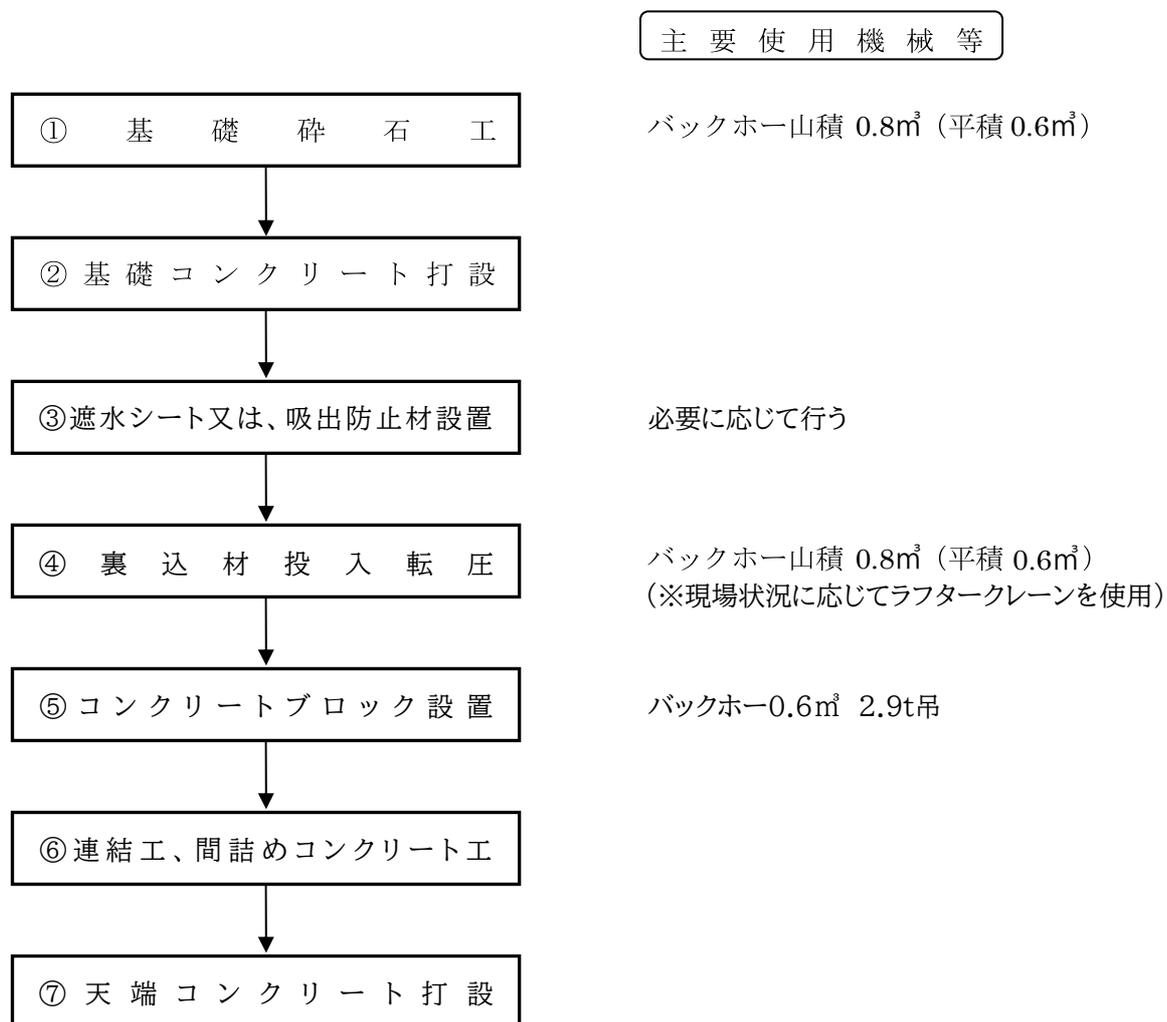
# プレストーン 施工要領

令和4年6月

## 1 - 1 工種別施工方法

### (1) コンクリートブロック張工

#### (A) 施工順序

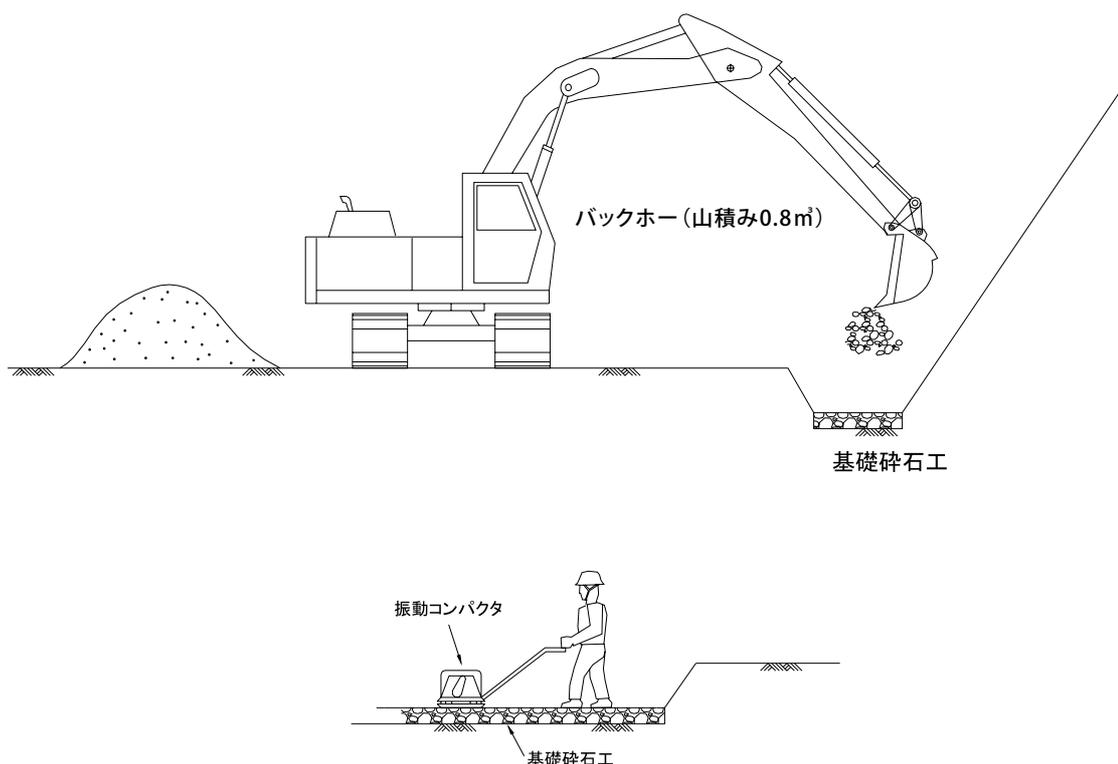


#### (B) 施工方法

##### ①基礎砕石工

基礎砕石材(RC-40)は、購入材をトラックで搬入した後、現場近くに仮置きし、バックホー(0.6<sup>3</sup>)にて所定の位置に小分けして投入します。投入した基礎砕石は所定の厚さになるよう、平滑に敷均しを行います。

人力にて敷均しした後、タンパにて締め固めを行うとともに、不陸の整正を行います。



## ②基礎コンクリート打設

### 型 枠 工

基礎砕石の敷均しが完了後、基礎コンクリートの型枠を組み立てます。型枠はコンクリート打設時に移動、変形が生じないように所定の断面、延長寸法が確保されるように正確に組立を行います。

### コンクリート打設工

型枠の組立完了後、基礎コンクリート(18-8-40)の打設を行います。打設は直打ちにて施工しますが、生コンクリートをミキサー車から取り降ろす際は、落下高が1.5m以下となるように実施します。

コンクリートは、バイブレータを使用して十分に締め固めを行います。

ひび割れの発生を防止するよう、コテを使用して平滑に仕上げます。

### コンクリート養生工

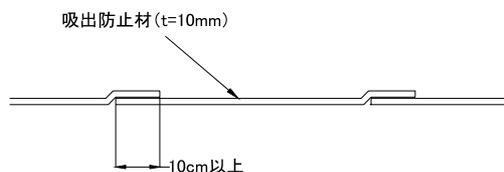
コンクリート打設終了後は、コンクリート表面の乾燥を防止するために、養生シートをかけて散水養生を行います。

### 型枠脱型

所定の強度発現後、型枠を脱型します。脱型に際しては、角部等の欠落を生じさせないように留意しながら施工します。

### ③遮水シート又は、吸出防止材設置

指定の吸出防止材を取り付けます。取り付けに際しては、しわ等が発生しないように平滑に取り付けます。



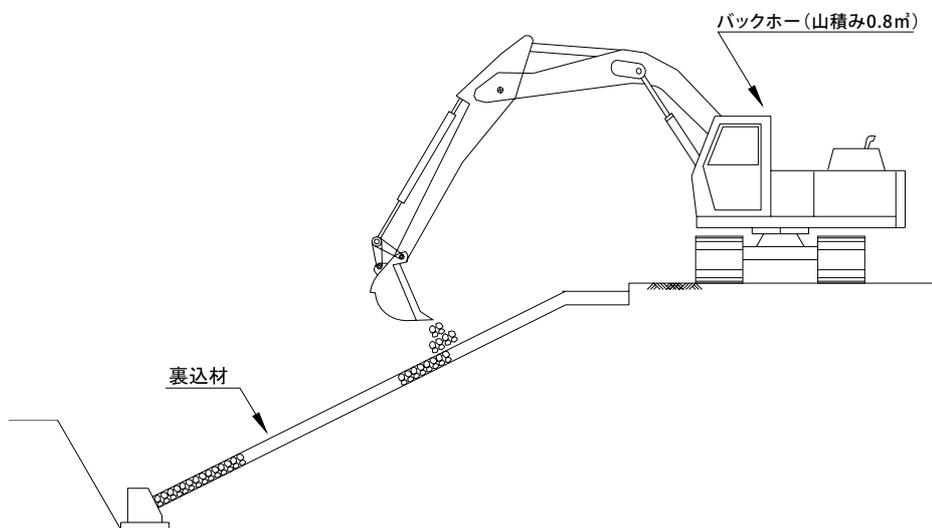
### ④裏込材投入転圧

#### 搬入・取おろし

裏込材には碎石（RC40）購入材を使用します。裏込材はトラックで搬入し、現場近傍の場所に取りおろして仮置きします。

#### 裏込材投入・転圧

裏込材は、バックホー（平積み0.6m<sup>3</sup>）を使用して所定の場所に投入します。投入に際しては、土砂等の不要なものが混在しないように注意しながら施工します。投入敷均しは、厚さ15～20cm程度を標準とし、タンパで締め固めを行います。



## ⑤コンクリートブロック設置

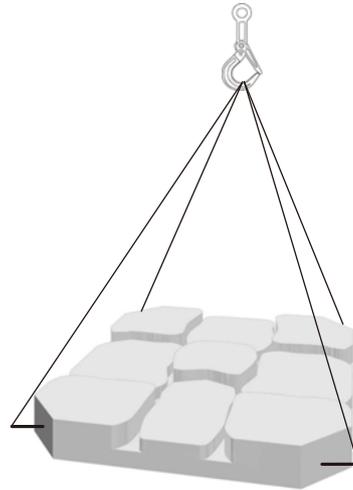
### 搬入・取おろし

コンクリートブロックはトラックで搬入し、パレットに載せた状態で現場近傍に仮置きします。搬入した材料は損傷を与えないように、重機の移動範囲内とならないように配慮します。

### コンクリートブロックの配置

コンクリートブロックは積み上げの進捗に従って、バックホー0.6 $\text{m}^3$ (2.9t吊)で吊り上げ、所定の場所に仮置き配置します。(※現場状況に応じてラフタークレーンを使用)

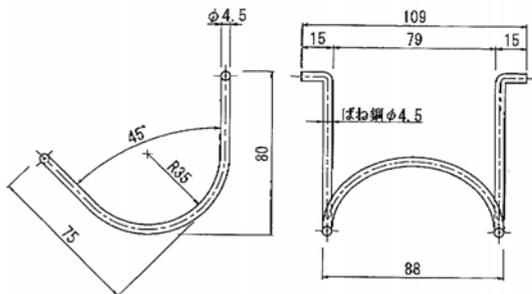
吊り上げる際は、ワイヤー(レバブロック調整)、シャックル、フック等を使用して4点で吊ります。ブロック同士の接触による角落ちやひび割れの発生が無いよう、慎重に作業します。



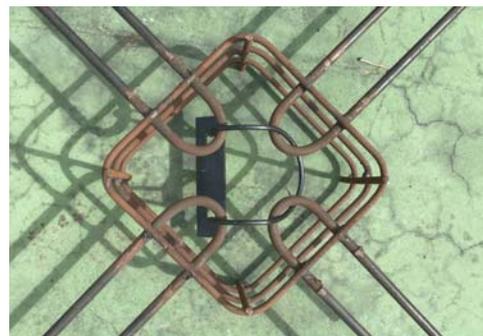
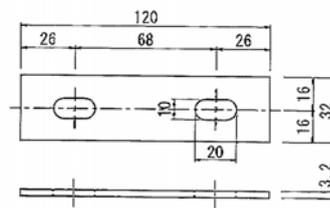
## ⑥連結工、間詰めコンクリート工

隣接する製品同士を専用連結金具を用いて連結し、間詰めコンクリートを打設します。

連結金物 ばね鋼φ4.5  
(材質: 30-C)



固定金物 PL-3.2×32×120  
(材質: SS400)



## ⑦天端コンクリート打設

### 型 枠 工

最上段の施工完了後、天端コンクリートの型枠を木製型枠材を使用して組み立てます。

型枠はコンクリート打設時に移動、変形が生じないように緊結します。また、所定の断面、延長寸法が確保されるように正確に組立を行います。

### コンクリート打設工

コンクリートは、バイブレータを使用して十分に締め固めを行います。

ひび割れの発生を防止するよう、コテを使用して表面を平滑に仕上げます。

### コンクリート養生工

コンクリート打設終了後は、コンクリート表面の乾燥を防止するために、養生シートをかけて散水養生を行います。

### 型枠脱型

所定の強度発現後、型枠を脱型します。脱型に際しては、角部等の欠落を生じさせないように留意しながら施工します。